

4 みんなとつながって

(1) 法やきまりを守って

P.120~129

4-(1)

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである法やきまりの意義を理解することと関連の深い項目である。

高学年の段階においては、社会生活上のきまりや基本的なモラルなどの倫理観を育成する観点から、児童が法やきまりの意義を理解し、遵法の精神をもつ所まで高めていく必要がある。一二〇・一二一ページでは、歩道への駐輪やごみ捨て、スマートフォン等の「ながら運転」など、身近な社会問題に目を向けられるようになっており、きまりやマナーを守ることへの意識を高めていくことができる。また、権利と義務について考えを深めるための書き込み欄や読み物資料もあり、児童が法やきまり、マナーを守る意義を、権利と義務の観点から考え、確かな規範意識を身に付けていくことができる。

2 活用のポイント

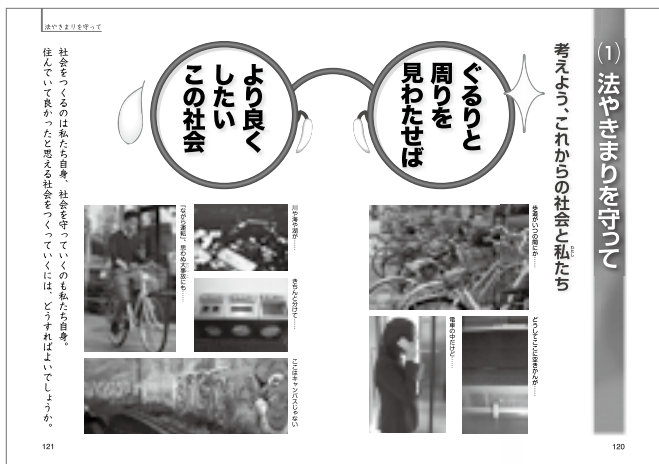
高学年の段階では、きまりやマナーは守らなければならないというところは理解している。しかし、ともすると「自分一人くらいは……」「他の人も守っていないから……」「誰も見ていないし……」というような弱い

公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。

心に負けてしまうことがある。誰の中にもある弱い心を自覚させ、法やきまりをしっかり守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。

3 活用場面例  
道徳の時間

一二〇から一二三ページは、社会のきまりやマナーに目を向け、今の自分はそのルールを守るべきか、自分で点検し、問題意識を高める際の資料として活用できる。また、きまりやマナーを守ることの大切さに



P.120~121

ついでの考えを書き込む際にも活用できる。

事例

- ① 一二〇・一二一ページの写真を見て、公共の場における身近な問題について話し合う。
- ② 読み物資料「きまりは何のために」を読んで話し合う。
- ③ 一二二ページに紹介されている掲示物を見て話し合う。

社会科

日本国憲法や基本的人権に関する学習の中で、国民としての権利及び義務について理解や考えを深める際に、一二四・一二五ページを活用できる。

特別活動  
(児童会活動)

集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決するため、学校のきまりを自発的に守ろうとする態度を育てる際に一二二ページを活用することができる。



P.124~125

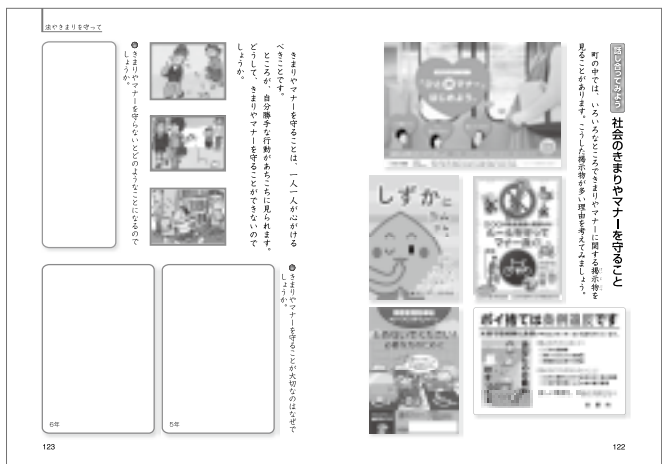
事例

- ① 学校のきまりが守られているかどうか、各学年の状況を話し合う。
- ② きまりが守られていない場面について、原因を考え、解決方法を話し合う。
- ③ 一二二ページを参考にして、学校のきまりを守ることを促すポスターを作成する。
- ④ 作成したポスターを校内に掲示し、児童会で「きまりの遵守」について呼び掛けていく。

家庭との連携

児童が自分の住む地域で見付けたきまりやマナーに関する掲示物について、家の人と話し合う場の設定を学級通信等で依頼する。

その際、一二二ページを活用し、このような掲示物がなぜ必要なのかについて、話し合いを深めてもらうようにする。



P.122~123

1 資料の特性

本資料は国会という国の立法機関の在り方などから、自分たちの生活におけるきまりの意義について考えさせる資料である。

健一たちの学校には、自分たちで決めた校庭遊びのきまりがあるにもかかわらず、明と鉄男の自分勝手な考えによってきまりは守られていなかった。

しかし、国会議事堂の見学を通じて、国の法律を決める国会の仕組みや国会議員たちの姿勢を知り、改めてきまりについて考えてみようとする。

国会見学を通して明と鉄男たちが気付いたことや、改めてきまりについて考えてみようとした思いを想像することによって、きまりの意義について考えることができる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、きまりについての考えが変容していく明と鉄男に焦点を当て、児童の考えと重ね合わせながら、そのときの思いを想像させていくことができる。

高学年の段階では、きまりを破るのはよくないことだと分かっている場合によっては、自分に都合のよいように考え、きまりを破ってしまうことがある。自

事例②

明と鉄男の言動を通して、きまりの意義について考える展開

【主な学習】

①遊ぶ権利を主張する明と鉄男の考えや行動をどのように思うか。

- ・自分に都合よく権利を主張している。そういうのは、権利とは言わないと思う。
- ・校庭遊びもしたいし、ゲームも買いたいという気持ちに分かる。自分も、少しくらいならきまりを破ってもいいかなと考えると思う。
- ・一人でもきまりを守らないと、それが周りの人に悪い影響を与えて、結局、きまりを守らない人が多くなり、困る人が出てくる。

②「きまりは何のためにあるのか」についてグループで話し合う。

- ・きまりは、みんなの権利を守るためにある。
- ・きまりがないと、みんな自分勝手な行動をしてしまう。
- ・みんなの権利を守るためにきまりを守ることが、一人一人の義務である。

③学校や社会のきまりについて、自分自身が守れているもの、守れていないものを挙げ、どうすれば守れるようになるのかについて話し合う。

・廊下を走らないというきまりは守れていないことが多い。少しくらいと思っっているとと思うけれど、大き

分の弱い心にも目を向けさせた上で、きまりの意義について考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

きまりを守ることの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育てる。

事例①

明と鉄男の思いを通して、きまりを守ることにについて考える展開

【主な学習】

- ①遊ぶ権利を主張する明と鉄男は、きまりに対してどのような考えをもっていたのか。
  - ・少しくらい破ってもいいだろう。
  - ・自分くらいなら破っても大した影響はない。
- ②次の日、他のクラスの人たちも、勝手な行動をするようになったのはどのような思いからか。
  - ・一部の人がきまりを破るなら、みんな守る必要はない。勝手に行動するのはずい。
  - ・守らない人がいるなら、自分だけ守っても意味がない。
- ③国会議事堂を見学した明と鉄男は、きまりに対してどのような考えをもつようになったか。
  - ・みんなのことを考えて作られているのに、一人でも破る人がいたらきまりの意味がなくなってしまう。
  - ・きまりは、みんなの権利を守るためにあるんだ。
- ④きまりに関する今までの自分の考えを振り返って、きまりを守ることの大切さを話し合う。

ながげにつながることもある。なぜ、このきまりがあるのかを各学級で話し合うとよいのではないか。

・校庭遊びのきまりは、よく守れていると思う。上級生の自分たちが勝手なことをしてはいけないと思っ

四の視点 重点ページ

社会で生きる一人として  
守らなくてはならないこと

1 このページの特徴

高学年の指導内容の重点の一つである法やきまりの意義を理解することに関して、特に人が人として守らなければならないことや、してはならないことを明記してある。

福澤諭吉の「ひびのおしえ」等を掲載しており、人間が社会生活を送る上で必要な規範意識を身に付けることを指導する際に活用できる。

2 活用事例

■日常生活

このページを活用して、人として「守らなければならないこと」と「してはならないこと」について指導した後、児童の意識が継続するように掲示資料として活用することもできる。

4 みんなとつながって  
(2) 公正、公平な態度で

P.132~139

4-(2)

1 この内容項目のページの特徴

正義の実現に努め、公正、公平に振る舞う児童を育てようとする内容項目である。

一三二・一三三ページでは、貧しさに苦しむ人々に献身的に尽くしたマザー・テレサのコラムなどを読んだ、社会の中の差別や偏見について考えることができる。また一三四ページでは、学校生活の具体的な場面を取り上げ、児童の周りにつらい思いをしている人がいないかどうか、そうした場面でのように行動すればよいのかを考えられるようになっていく。さらに一三五ページのメッセージは、いじめの側、いじめられる側、いじめを見ている側のそれぞれの立場について述べられており、いじめの問題をどのようにして解決していけばよいのかを考

えることができる。差別や偏見のない公正、公平な社会をつくるために、どのような見方や考え方が大切なのかについて考え、いじめや仲間外れを許さない態度を育てていくようにしたい。

2 活用のポイント

人間には、誰もが知らず知らずのうちに偏った見方をしてしまう弱さがあることを自覚させ、児童が自主的に自らを省みる習慣を身に付けていけるようにすることが

する必要がある。

事例

- ① 一三二ページを読み、差別や偏見について考える。
- ② 読み物資料「愛の日記」を読んで話し合う。
- ③ 公正、公平な社会をつくるために大切なことを、身近な出来事を基にして話し合う。

総合的な学習の時間

福祉を課題とする学習活動の導入などの際に活用できる。

事例

- ① 一三三ページを読んでマザー・テレサについて知り、感想を交流する。
- ② 人々のために活動している取組など、自分が関心をもったテーマについて調べる。
- ③ 調べて分かったことや感じたことをまとめる。
- ④ まとめたことを伝え合い、感想を交流する。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、望ましい人間関係を築くための人との関わり方を学ぶ際に一三四ページを活用することができる。また、いじめの問題について指導する際に活用することも考えられる。

だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。

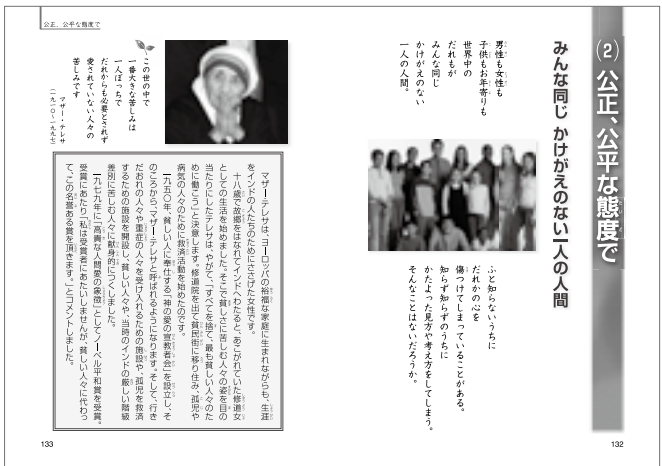
大切である。

メッセージ性の強い言葉が載せられているので、折に触れて読み返すようにしたい。

3 活用場面例  
道徳の時間

一三二ページは、世の中の差別や偏見に目を向け、自分の中に偏った見方や考え方がないかを振り返って考える際に活用できる。

ただし、学級などでの話し合いの際には、特定の児童の個人的な問題を取り上げたり、追及したりしないよう人権上の配慮を



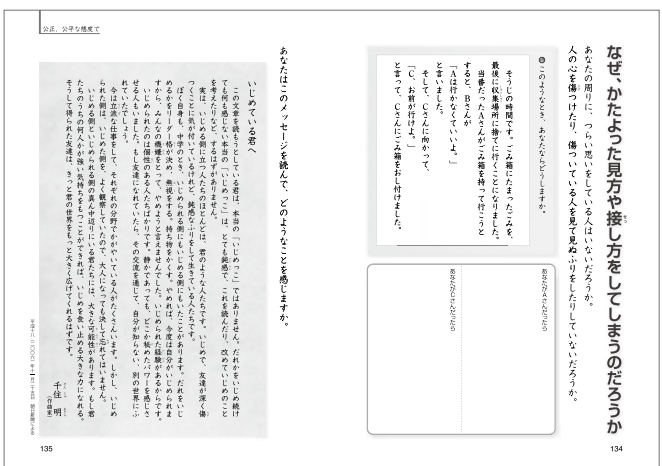
P.132~133

事例

- ① 一三四ページの場面を演じて、感じたことや問題だと思ったことについて話し合う。
- ② このようなとき、どのようにするのか、自分の考えを書き込み欄に記入する。
- ③ 書いたことを基に、AさんやCさん役になって演じ、対応の仕方を考える。
- ④ 一三五ページを読み、感じたことを話し合い、望ましい人間関係づくりのために取り組んでみようと思うことを決め、実行できるようにする。

家庭との連携

一三五ページを家庭で読んで、家の人と感想を話し合う。いじめをなくすためにどのようなことが大切なのかについても家の人と話し合い、正義の実現に努めようとする態度を育む。



P.134~135

## 1 資料の特性

本資料は子供たちのための施設エリザベス・サンダース・ホームを設立した澤田美喜に関する資料である。全体を通して、主人公である愛の心情が、日記形式で綴られている。

ベトナムから来日したクラスメイトであるリヤンちゃんに、愛はなかなか声を掛けられないでいた。父はそんな愛を自分が育ったエリザベス・サンダース・ホームに連れて行き、いじめられた経験話す。愛の父が生まれたのは戦後の混乱期であった。アメリカ人と日本人との間に生まれ、ホームに預けられた父は、ホームを一步出ると目や髪の毛の色が違うという理由でいじめを受けた。父の話聞いて、愛は心がうずく。そんな父を支えたのが、ホームの設立者である澤田美喜であった。

澤田先生の分け隔てない人間愛に触れ、愛は自分の身近な生活における差別や偏見に関わる問題を自分の課題として受け止めることができた。愛の心情を想像することで、公正、公平な態度について考えることのできる資料である。

## 2 指導上の留意点

本資料の活用に当たっては、リヤンちゃんのことを気に掛けながらも、なかなか声を掛けることができずにい

・澤田先生の言葉の通りだ。みんな同じ人間なのに。父もつらい思いをしてきたのだろう。

③ 「ありがたい思いだったのだろうか。どのようないい思いだったのだろうか。」

・澤田先生のお陰で強い心になれた。  
・リヤンちゃんに声を掛けることができ心が温かくなった。リヤンちゃんもうれしそうでよかった。  
・これからは、澤田先生のように誰に対しても一人の人間として同じように接していこう。

## 事例②

差別や偏見、いじめの問題について考える展開

## 【主な学習】

① 澤田先生は、どのような思いで「同じ人間じゃありませんか。」と言ったのだろうか。

・日本人も外国人も同じ人間だ。差別はいけない。  
・誰に対しても公正、公平にすることが何よりも大切だ。

・姿勢が違うからといって、差別をすることは許されない。

② 差別や偏見をなくすために、努力した人の話を知っているか。それは、どのようなことか。

・キング牧師が黒人差別をなくすために努力した。  
・マザー・テレサは誰に対しても分け隔てなく接して、ノーベル賞を受けた。

る愛に、児童自身を重ね合わせて、その気持ちや思いを感じ取らせるようにする。そして、澤田先生の人間に対する普遍的な愛情や、偏見や差別を絶対に許さない強い心に触れることを通して、公正、公平の意義を考えさせるようにしたい。

## 3 展開例

## 【ねらい】

差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平に接することの大切さを理解し、進んで正義の実現に努めようとする態度を育てる。

## 事例①

愛の思いを通して、公正、公平について考える展開

## 【主な学習】

① 父の話聞いた愛は、どのようなことを思ったのだろうか。

・父が、つらかった自分の経験を打ち明けてくれた。父にとつて忘れられないことなのだろうか。

・父は、リヤンちゃんのことを自分のことのように心配しているんだ。

・私がリヤンちゃんに声を掛けられないのは、知らず知らずのうちに、リヤンちゃんを差別していたからではないか。

② 愛が父のアルバムを見て涙を流したのは、どのような思いからか。

・まだリヤンちゃんに声を掛けられずにいる。自分を信頼してくれている父に申し訳ない。

③ 差別や偏見のない公正、公平な社会にしていきたいためには、どのようなことが大切なのだろうか。

・一人一人違っているのは当たり前。その違いを認めていくことが大切。

・偏った見方や考え方をしているのではないかと立ち止まって考えたり、相手の立場に立って考えたりすることが大切。

④ いじめを生まないようにするためには、どのようなことが大切なのだろうか。

・いじめを絶対に許さないという強い心を全員がもたなければならぬ。

・いじめられる人の立場に立って考える。  
・互いの個性を認め合う。一人一人を大切にす。

※話し合ったことを基に、「いじめ撲滅のための標語」を考えて発表し合うこともできる。

※一三五ページのメッセージを拡大して校内に掲示するなどして、いじめを許さないという意識を高めることもできる。

4 みんなとつながって

(3) 自分の役割を自覚して

P.140~149

4-(3)

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである集団における役割と責任を果たすことと関連の深い項目である。

一四〇から一四三ページでは、集団の中にはどのような役割があるのかを確認しながら、学校や家庭、地域などで自分がどのような集団に属し、どのような役割を果たしているかを振り返って考えることができる。また、一四四・一四五ページでは、集団をよりよくするために一人一人の果たすべき役割の大切さと、その集団で自らがすべきことについての自覚を深められる。

これらのページから、よりよい集団を目指し、主体的に自分の役割と責任を果たそうとする態度を育てていくようにしたい。

2 活用のポイント

高学年の段階では、学校や地域において、学級集団、児童会やクラブなどの異年齢集団、遊び仲間や各種少年団体などの身近な集団の中で、自分の立場や全体の動きを自覚できる活動に、主体的、積極的な意欲をもって参加することが求められる。それらを通して自分の役割と責任を果たすとともに、成員相互の関わり大切さや、

協力して目標を達成することのよさに気付くことができるようにしていくことが大切である。

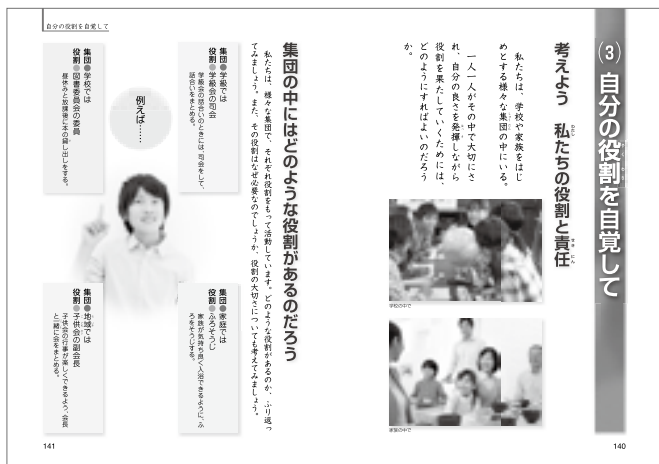
3 活用場面例

道徳の時間

一四〇・一四一ページを活用して、役割の大切さについて考えを深めることができる。

事例

①自分が所属する集団にはどのようなものがあるか、また、その集団の中でどのような役割を果たしているか、一四〇・一四一



P.140~141

事例

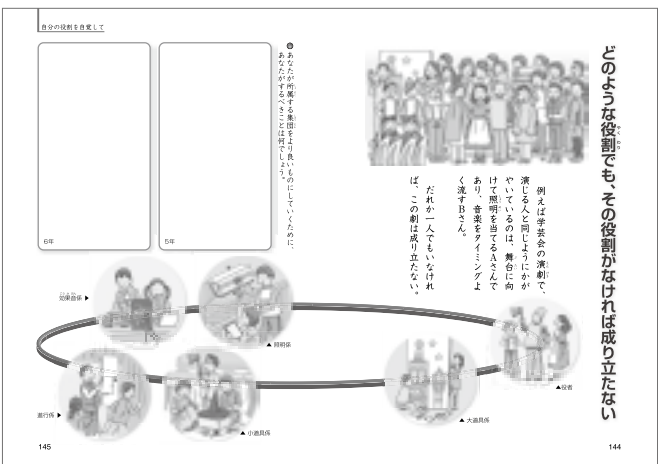
①一四二ページの写真を見て、自分たちが様々な集団に属していることを確認し合う。  
 ②自分の所属する集団と、その中でどのような役割を果たしているか一四三ページに記入する。  
 ③所属する集団をよりよくするために、自分たちがすべきことについて話し合う。

家庭との連携

一四五ページに書き込んだことを家の人に伝え、励ましの言葉などを通らうことを通して、児童の実践意欲を高めることができる。

日常生活

児童が役割と責任を果たすべき場は、毎日の生活の中にある。一四二ページや一四四・一四五ページを学級内で掲示することで、児童の実践意欲の継続を図っていきたい。



P.144~145

ページを手掛かりに話し合う。  
 ②読み物資料「小川笙船」を読んで話し合う。  
 ③集団の中で自分の役割を果たすことの大切さについて話し合う。

特別活動（学級活動・児童会活動・クラブ活動）

学級活動の内容「(1)学級や学校の生活づくり」の「イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理」、「ウ 学校における多様な集団の生活の向上」の指導に当たって、自分の役割や責任を果たすとともに成員相互の関わり大切さや、協力して目標を達成することの大切さに気付くようにするために一四二・一四三ページを活用することができ。

また、児童会活動やクラブ活動において、自分の役割や責任を自覚する際にも活用できる。



P.142~143